



清新二中だより

本校教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人（敬愛）
- 2 進んで学び、深く考える人（知性）
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人（健康）
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人（責任）
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人（礼節）

卒業

校長 白石 亨

体育館に響く大きな拍手はしばらく鳴り止まなかった。

昨年10月末に行われた本校けやき祭・合唱コンクール。3年生は課題曲「大地讃頌」、A組自由曲「輝くために」、B組自由曲「モルダウ」を熱唱してくれた。各クラス、指揮者、伴奏者、合唱者が一体となって素晴らしい歌声を体育館いっぱいに響かせてくれた。その歌声は圧巻で、後輩、保護者、教職員に大きな感動を与え、大きな拍手がしばらく鳴り続けたのだ。そして歌い終わった3年生の顔は、舞台のスポットライトに照らし出され、深い陰影をつくりながら優しい笑顔に輝いていた。やり切った安堵感、成就感が見られた。

昨年10月、けやき祭が近づいてくると校長室には、連日大きな歌声が響いていた。

コロナ禍の影響で例年ほどには練習時間がとれない制約の中であったが、3年生は最後の合唱発表会になるとの熱い思いを込めて全力で練習に取り組んでくれていた。その練習の様子を覗きに行くと、担当パートごとに集まってCDデッキから流れる曲に合わせて繰り返し歌い込んでいた。綺麗なハーモニーが響くと思わず仲間と一緒に笑顔がこぼれる。さらに良くしようと譜面を持ち寄り車座に座り込み、優しく歌うところ、強めに歌うところなど、仲間全員で意見を述べ合い、曲の意味合いを十分に咀嚼して譜面に書き込んでいた。少しでもよりよい歌にしようとする真摯な姿があった。合唱は心を合わせて歌うことが何よりも大切なのだ。

だが「クラスがひとつになる！」との言葉はよく使われるが、その実際はなかなか難しい。

そんな中でも、ピアノ伴奏者は長い時間をかけて黙々と鍵盤に立ち向かっていた。指揮者は全員目を見て、全員の心に届くようにと、気持ちを込めて指揮棒を振るっていた。3年生の誰もがその気持ちをしっかりと受け止めていた。同じ空間で、同じ時間を過ごし、同じ思いをもち続けることで、確実に何かが変わっていく。仲間と供に過ごす時間が長ければ長い分だけ確実に変わっていく。一人ひとりの思いや気持ちがクラス全体の姿を変えていくのだ。3年生ならではの優しさが一つに纏まり、素敵な歌声を創り上げてくれたのだ。

その折々に活躍し、清新二中最高学年の力を遺憾なく発揮し、本校の教育活動を牽引してくれた3年生。

合唱コンクールでの活躍は勿論のこと、運動会ソーラン節での雄姿も忘れることができない。黒い半纏を身にまとい、きびきびと力強く、生き生きと颯爽と舞い踊る姿は今でもしっかりと脳裏に焼き付いている。

そして迎えた高校受験。誰もが不安に思う受験。友達が合格したと聞けば、我が身のように喜び、ダメだと知れば一緒に悲しむ。勿論、受験は個々の問題ではあるが、3年生全員が団体戦の気持ちで臨んでくれた。

そして、もう、春が近くまで来ている。

春になれば清新二中の東門の2本の桜の大樹はまた満開に咲き誇り、新入生を迎え入れることだろう。だが卒業する3年生は残念ながらこの桜を見ることはできない。しかし、同じ頃、違う場所で、新たな高校で、それぞれが、それぞれの桜の花を見上げていることであろう。桜の花びらで彩られたアスファルトの道をしっかりとした足取りで歩き、凜とした顔付きで高校の門をくぐっていく3年生皆さんの姿が目に見えてくる。

清新二中で育んだ力を信じ、新たなステージで若々しい力を発揮してもらいたい。一層の活躍を願っている。